



# 議会図書室からのお知らせ

今月の新着図書  
R6年9月（一般用）

## 『〈共働き・共育て〉世代の本音 ～新しいキャリア観が社会を変える』

キャリア

本道敦子・山谷真名 他【著】/光文社 (2024/3)



家庭は妻に任せ、仕事に生きてきた男性が多いマネジメント世代と、現場で働く若い世代との間に立ちはだかる「ワークライフバランス観の違い」。現代のデュアルキャリアカップルの仕事と子育ての本音を紹介し、これからの働きやすい職場を考える。

## 『人口は未来を語る ～「10の数字」で知る経済、少子化、環境問題』

少子化

ポール＝モーランド【著】/NHK出版 (2024/1)



「少子化は政策より個人の思想が影響する」「高齢化が進むと紛争が減る」「超高齢化社会の日本は未来の象徴」など、人口動態に関する象徴的な「10の数字」をもとに、気鋭の人口学者が読み解く、より良い未来を選択するためのユニークな教養書。

## 『限界集落の経営学～活性化でも撤退でもない第三の道、粗放農業と地域ビジネス』

農業

斉藤俊幸【著】/学芸出版社 (2024/5)

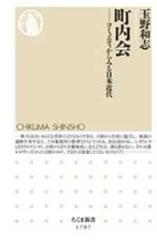


どんなに人口が減っても農地・集落を維持できる方策とは何か？若い世代がやりたいと思える農業の形や、住民だけで維持してきた農村に、外部から新しいイノベーションを吹き込み、後継者を絶やさないようにする方法などを紹介。過疎地域再生の教科書。

## 『町内会～コミュニティからみる日本近代』

自治

玉野和志【著】/筑摩書房 (2024/6)

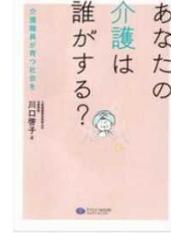


加入率低下と担い手不足で存続の危機にある「町内会」。この不思議な住民組織はどのように生まれたのか。共助の伝統か、行政権力の統治技術か。コミュニティの歴史をひもとくことで、国の成り立ちも見えてくる。「町内会再生の手がかり」を探る。

## 『あなたの介護は誰がする？～介護職員が育つ社会を』

介護問題

川口啓子【著】/クリエイツかもがわ (2024/6)



やがて誰にも訪れる「要介護」の現実。施設に入れば大丈夫？ヘルパーの方を頼めば解決？しかし現状、介護職員は不足し、事業所の撤退は増加の一途にある。待ち受ける超高齢化社会でも、家族介護に陥らず、安心して暮らしていくためのヒントを探る。

## 『2080年への未来地図』

産業/社会

川口伸明【著】/技術評論社 (2024/4)

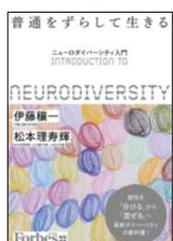


「もし紫式部がChat GPTを使ったら？」「戦争する暇がないほどおもしろい世界をつくるには？」AI、ウェルビーイング、ネイチャーポジティブなどの幅広いトピックスに膨大なデータで迫る未来予測本。私たちが生きたい未来はデザインできる！

## 『普通をずらして生きる ～ニューロダイバーシティ入門』

多様性

伊藤穰一・松本理寿輝【著】/プレジデント社 (2024/5)



人と話すのは苦手でも、アートで思いを伝えたり、音や光に激しく動揺しても、静かな環境があれば、高度な計算やプログラミングに能力を発揮できる。そんな脳神経の多様性を尊重し、「定型」の息苦しさから解放されよう。皆がポジティブに生きる社会を目指す1冊。

## 『感じるオープンダイアログ』

心理学

森川すいめい【著】/講談社 (2021/4)



「オープンダイアログ」発祥の国フィンランドでは、「対話」で精神面に困難を抱えた人の8割が回復。学校や職場、家庭、議会でも対話の場が開かれ、大きな効果を上げている。「オープンダイアログ」とは何なのか？様々な疑問に医師が回答する。

## 『核燃料サイクルという迷宮 ～核ナショナリズムがもたらしたもの』

環境

山本義隆【著】/みすず書房 (2024/5)



行き場のない放射性廃棄物を無用に増やしながら、まったくサイクルできないまま、十数兆円以上を注いで存続されてきた核燃料サイクル事業。地震大国にとって大きなリスクとなる原発と決別することはできないのか？核エネルギー政策を問う1冊。

▶特別委員会シリーズ②：「スポーツ・文化振興」に関する書籍

新着

『スポーツがつくる未来  
～30年後のあなたの地域と社会』

相原正道・大島良隆【著】/晃洋書房 (2024/3)



スポーツはこれからどこへ向かうのか？今、大きな岐路に立っている。デジタルによるグローバル化が進む中でスポーツの力が織りなす未来像とは何か？スポーツの力が世界をいかに変えるのか、その答えがここにある！

新着

『アーティスト・イン・レジデンス  
～まち・人・アートをつなぐポテンシャル』

菅野幸子・日沼禎子【編】/美学出版 (2023/5)



異文化と出会い、新しい表現を生み出すアーティストと自らの足元にある豊かな文化を再発見する運営者(地域)。それぞれの経験に基づく視点から、「AIR」の未来を切り拓くためのヒントを探る。

新着

『eスポーツ社会論』

川又啓子【編著】 菊地映輝 他【著】/同友館 (2023/7)



興行型ビジネスとして注目される「eスポーツ」は、地域活性化、教育、福祉など社会性を帯びる分野へも広がりを見せている。社会的影響を見据えた「eスポーツの今とこれから」を分析し考察する。

新着

『健康政策としての市場構築～自己選択に基づく“健康づくり”への新たな支援のかたち』

石井敦子【著】/博論社 (2024/4)



健康政策の新たな枠組みとしての「自助・共助・公助・商助」の役割とは？健康になれる環境づくり、健康になろうとする主体性、官民連携によるプロモーションなど、健康寿命を維持する方策を多角的に論じる。



図書広報委員がおすすめする一冊

『だから僕たちは、  
組織を変えていける  
～やる気に満ちた「やさしいチーム」  
のつくりかた』



著者：斎藤徹/クロスメディア・パブリッシング (2021年12月)



紹介者：清水 大樹 委員  
公明党・高崎市選出・1期

人類は農業革命、産業革命、情報革命と3つの社会革命を経験し変化を続けています。特にコンピューターの登場により起きた情報革命によって、指数関数的なスピードで変化する世界が作りだされています。社会の変化により、人の仕事に対する考え方もモチベーションも変化しています。故に企業はじめ、あらゆる組織も変化をしていかなければいけない状況です。しかしながら、どの様に組織を変化させていくのか、何から手を付けていけば良いのか、非常に難しいのも現実であると思います。そんな時にあなたの答えを導き出す一助となる本です。

▶次号では、松本 隆志 委員におすすめしていただきます！

